

21年冬季国体開催への

財政計画を示せ

昨年12月の全員協議会において町長は21年国体開催については県側の支援と縮減予算で開催可能であり、町としても開催に向けて全力を挙げて取り組んでゆきたいという意向を示されました。しかし、県との費用負担割合、業務分担の明確化等については明言されていないため、現在の町の財政状況の中で多額の費用を要するこの冬季国体開催を疑問視する声があります。

質問

そこで以下について質問いたします。



師田 保

- ①その後の県との協議経緯について
- ②開催総費用における県と町との費用負担割合及び業務分担などについて
- ③町負担分の財源確保をどのように考えているか

町長答弁

平成14年に冬季国体開催の決定を受けて以来県とは開催会場地との業務分担、及び費用負担などを主な協議事項として開催に当たっての人的な支援体制や費用の面では平成14年に行われた妙高国体並の体制をとるよう求めてきたところであり、今後も共同開催地である十日町市、川西町と連携を深めながら県の強力な支援を得られるよう努力するつもりでおります。

次に県と町との費用負担割合及び業務分担についてはありますが、現在県側では概算費用を集計する作業

を進めている最中でその結果により負担割合を決定したいという意向であります。妙高国体では6対4の割合で県が6市町村が4という割合でありましたので、このことから開催総費用概算の町負担分は約1億9千500万円と考えております。業務分担については正式には示されておりませんが県の国体局長からは開会式、閉会式は県が担当するという発言を得ております。

次に町負担分の財源確保についてであります。この冬季国体は町のスキースポーツの振興に寄与することや減少するスキー人口の復活、更にはスキーリゾート湯沢町のアピールのため、の絶好の機会であると考えておりますので、さまざまな経費の縮減や基金の活用を行って是非この国体を成功に導くよう努力するつもりでおります。

浅貝流路工の早期整備実現について

質問

浅貝川流路工は平成8年に暫定一部竣工され、現在に至っておりますが、上流部はまだ整備されておりません。この川は国境山間部



H15.9.13 地元関係者・産業建設委員会と合同視察したつくば市の浅貝川水利模型試験所

を源として大雨による出水で常に洪水氾濫の危険性があり地域住民にとって大きな不安の要因となっております。このことから町としても国県に対して早期整備にむけて積極的な要請をすべきではないかと思うが、町長の考えを伺います。

町長答弁

湯沢砂防事務所としても昨年つくば市の建設技術研究所筑波試験所において地元関係者、及び所管議員の皆さんと水利模型実験による洪水時における被害状況

の勉強会を開催してきた経緯もあり、必要な事業であるという考えは今も変わっておりません。今後地元関係者の同意が得られれば調査再開にむけて本庁と調整を図る考えでいると伺っています。町としても不可欠な公共事業であると認識しており、再三整備促進を要望しているところであります。今後は湯沢砂防事務所を交えた地元関係者の皆さんとの勉強会を行いながら早期事業着手にむけての要望活動を精力的に行なってゆきたいと考えております。

一

般

質

問